

ゆうやけこやけりぶれい

湖畔の秋



まえがき

ちょっとだけ、彼ら変化たちの暮らしぶりを、覗いて見てみましょう

『ゆうやけこやけりぶれい 湖畔の秋』をご購入いただき、真に有難うございます。

本誌は、つぎはぎ本舗『ゆうやけこやけ』のリプレイ本……つまり、TRPG（テーブルトークRPG）のプレイ風景を収録したもので

『ゆうやけこやけ』およびTRPGについての詳細な解説は割愛しますが、本誌収録の2作は、変化（へんげ）たちが語り手の情景描写と共に物語を紡ぐ、という形式になっています。



2つの物語の舞台となる「森宮市」は、鉄道も普通列車が30分に1本程度しか止まらない地方都市。今では宅地造成も進んでいますが、付近には「釣鐘山」をはじめとした、自然豊かな山々が連なっています。そんなわけでこの周辺は、今も昔もかわらずにのんびり。

そんな森宮市周辺には、人間だけが生活しているわけではありません。

山には動物、川には小魚が泳いでいますが、この辺りには人知れず、昔から「変化」と呼ばれる住民たちも棲んでいます。

彼らの正体は、人に化ける狐や狸。彼らは釣鐘山の周辺で、人間たちとつかず離れず、上手く関わり合いながら、暮らしています。

今回ご紹介するのは、釣鐘山のふもと、白津饅（しらづけ）神社の竜胆狐の周辺で起こった、2つの出来事。

1つは夏、1つは秋。

もくじ

まえがき

もくじ

まちのなかまたち

ものがたり『秘密基地を守れ!』語り手..るう

自己紹介

場面1 釣鐘山脇の林道・朝

場面2 釣鐘山脇の林道・昼

場面3 不法投棄現場・昼

場面3.5 ここらでちょっと作戦会議

場面4 不法投棄現場・夜

場面5 釣鐘山脇の林道・夕方

ものがたり『湖畔の秋』語り手..らっこやく

自己紹介

導入 にけの家・朝

場面1 釣鐘山 白津饅(しらづけ) 神社の境内・昼

場面2 釣鐘山 写見湖・昼

場面3 釣鐘山 写見湖のほとり・昼

場面4 釣鐘山 写見湖のほとり・昼

場面5 釣鐘山 写見湖のほとり・昼

場面6 釣鐘山 写見湖のほとり・夕方

あとがき

まちのなかもたち



名前	あき
正体	兎（おんなのこ／年齢1歳）
人間の姿	13歳くらいの女の子。肩より少し下くらいの長さの茶髪。瞳の色は黒。街の中学校の制服であるセーラー服を愛用している。
設定	性格は素直で快活。種類は野うさぎ。趣味は、にげにかまう（かまわれる）こと。
へんげ 【2】 けもの 【3】 おとな 【1】 こども 【2】	



名前	くちば
正体	兎（おんなのこ／年齢3歳）
人間の姿	13歳くらいの女の子。髪は黒くてストレート系のショートカット。外ハネ気味。耳の動きで感情が読める。
設定	いたずら好きでやんちゃな兎と思われがちだが、実は他の人やへんげと一緒に何かをするのが好きなだけ。根は小心者だったりする。深く考えずに突っ走りがちで、足の速さには自信がある。
へんげ 【1】 けもの 【4】 おとな 【1】 こども 【2】	

名前	ひめり
正体	狸（おんなのこ／年齢1歳）
人間の姿	9歳くらいの小柄な少女。くせつ毛ボブカットの茶髪と、おでこにかけた黒縁メガネが特徴。
設定	他人にいたずらして、相手が困っているのを影で見るのが好き。しかし、アホなので失敗も多い上に、仕掛けた相手にやり返されることも多い。将来の夢は「お山の大将」。
へんげ【3】 けもの【3】 おとな【0】 こども【2】	



名前	にけ
正体	猫（おんなのこ／年齢13歳）
人間の姿	猫の絵をプリントしたTシャツにショートパンツ。髪の毛がもっさりしている。
設定	趣味は囲碁とか将棋と快活そうな人間の姿に反してじじくさい。近所の爺様にはいつも勝てない。
へんげ【2】 けもの【1】 おとな【4】 こども【1】	



名前	竜胆（りんどう）
正体	狐（おとこのこ／年齢？歳）
人間の姿	10歳くらいの男の子。肩にかかる程の長さの白髪に金色の瞳。藍色の着物を好んで着ている。
設定	釣鐘山中の白津饅神社に住む白狐。詣でる人たちの願いを聞きながら、社を護っている。街へ出歩いていくのは好きだが俗的な事には疎い。
へんげ【3】 けもの【2】 おとな【2】 こども【1】	

ものがたり『秘密基地を守れ!』語り手…るう

自己紹介

竜胆

竜胆という名前の白狐だ。人間に化けた時の姿は、肩にかかる程の長さの白髪に、藍色の着物の子供。森宮市・釣鐘山の白津饅(しらづけ)神社に住んでいる。

好きなものはあぶらあげとお酒。嫌いなものは夜追いかけてくる警察。危うく補導されるところであつた……。

くちば

変化は身元を証明してくれる人もいませんからねー。

ひめり

保健所とかも怖いなー。

ひめり

わたしの名前はひめり。普通の狸です。人間モードだと、9歳くらいの小柄な少女でくせつ毛の茶髪が特徴！ 髪の長さは肩にかかるいくらいかな？

あと、黒縁のメガネをおでこにかけている。理由は、そのままかけるとかっこ悪いから。

他人にいたずらして、相手が困っているのを影で見るのが好き。けれど、アホで失敗も多い上に、仕掛けた相手にやり返されることが多い。将来の夢は「お山の大将」……まだ世界が狭いから、山がわたしの全てさ！

くちば 素朴な夢ですね。お山の大将なら竜胆さんを打倒しなければ(笑)

語り手 山のことには詳しいのかな？

ひめり 少少詳しいかも、でも子供だから行けない場所とかあるなら、そういうところについては知らないと思う。

くちば あたしはくちば。本来の姿は枯葉色っぽい野兎です。朽葉色だ

から「くちば」。

変身時の姿は13~4歳くらいの女の子。見た目中学生くらい。黒髪ショートカットで、スポーティーっていうかラフな格好が好き。

『せつかち』なので、いろいろ考える前に身体が動く感じかなー？

走るの大好きなので『けもの』が4もあります。

語り手

俊足だ。

語り手

で、突つ走つたら隣に誰もいないことに気付いてふと寂しくなつたりする。兎なんで。『かわいい』んで。愛してください。以上！

竜胆

語り手

まずはお互いの『つながり』の内容を決めようか。お互い、強さは1ずつだね。自己紹介を参考に、お互いどんな感じを抱いたか言って下さいな。

語り手

最初は『好意』なんだつたつけ？

くちば

いや、『好意』は2までしか上げられないってだけで、2以下が必ず『好意』でなければならないってことはないよ。

くちば

あ、そうなのか。

ひめり

『愛情』は逆に低いと取れないから、今はダメだよね。

竜胆

『受容』も普通の変化からは取れない『つながり』だつたな。

ひめり

とりあえず、竜胆には『対抗』で。くちばとはどう関係するだろ

くちば

う……無難に『好意』かな？ ……やっぱり『信頼』にしどう、

年上っぽいし。

ひめり

わからないよ？ ひめりをほつぼといて、自分だけ逃げたことがあるかもしれないよ？

くちば

ひめりをほつぼといて、自分だけ逃げたことがあるかもしれないよ？

くちば

竜胆さんには『尊敬』を取つておこうかな。ひめりちゃんには、いまいちピンと来るものもないので、『好意』にしておきます。

竜胆 ひめりには『好意』、くちばには……『尊敬』じゃろうか？あの脚の速さは稀に見る。

語り手 自分が相手に対し抱いている『つながり』の内容を自分の側に、相手が自分に対し抱いている『つながり』の内容を相手側に書いてね。

語り手 全員決まつたかな？ それじゃあ早速、最初の場面に移ろうか。

場面1 鈎鐘山脇の林道・朝

語り手 場面の開始時に、自分からの『つながり』の合計を『ふしげ』に、

相手からの『つながり』の合計を『想い』に足しておくれ。流石に、4じや大したこと出来ないなあ。

『変身』も迂闊には使えんなあ。『ひみつ』があると『変身』せんわけにもいかんし……。

語り手 まあ、『変身』するかどうかはさておき、今は夏休み、日も高くなり始める朝の……そうだな、9時頃にしよう。

くちば 夏休みかー、小学生がわらわらと出てくる時期だねー。

竜胆 一年で一番山がうるさい時期ではないか。

くちば うかつに姿を見せてはいけない！ 小学生とか普通に追いかけまわしてくるからね！

ひめり ま、あたしのほうが速いんですけど？ うーさーぎーおいしー……。

竜胆 ひめり 夏休みかー、小学生がわらわらと出てくる時期だねー。

くちば 一年で一番山がうるさい時期ではないか。

ひめり うかつに姿を見せてはいけない！ 小学生とか普通に追いかけまわしてくるからね！

竜胆 ひめり 夏休みかー、小学生がわらわらと出てくる時期だねー。

が……そんな中、君たちが今いるのは、鈎鐘山と隣の山の間の谷に沿った林道のあたりだ。ちょうど向こうから、二人の男の子がやつてくる。歳のほどは、10歳と8歳……といったところだろうか、意気揚々とやつてくる兄に、弟がついてきた、といった様子だね。

くちば 「ケケケ……いたずらのカモがやつてきたわ……」とニヤニヤしながら隠れてる。

竜胆 じやあ、走り疲れたのでどこかに隠れておこう。

くちば 「ケケケ……いたずらのカモがやつてきたわ……」とニヤニヤしながら隠れてる。

竜胆 そんな狸と子供らを、木の上からなんとなく眺めている。

竜胆 語り手 君達が隠れているのには気づかずに、鼻歌を歌いながら目の前を通り過ぎる。何かする？

竜胆 特に何も。社に悪戯なんぞせん限りは、山は寛大に迎えてやろう。

くちば じつとしているのに飽きたので、目の前を走つて林道の反対側に行きます。

ひめり 耳としつぽだけ残して化けて、いきなり目の前に飛び出て驚かすかな？

くちば それならひめりちゃんと結託してたことにしようか（笑）飛び出して、ひめりちゃんの隠れる方に誘導してー……。

くちば 語り手 くちばが目の前を横切ると、弟のほうが「あつ！ なんかいる！」と声を上げる。すると兄が「ウサギだ！」と叫んで追いかけようとする……そして弟も慌ててそれについていく感じ。

おお、おお、元気だな。

くちば ふふつ、ついてこられるかなッ！

語り手 『けもの』はいくつ？ それ次第でこの後の結果を決めよう。

3。 竜胆 ひめり 4. 自分の足に絶対の自信を持つてるので『想い』は使いません！

語り手

なら、二人は慌ててくちばを追いかけたけれど、すぐに茂みの中に見失つてしまつた。探してうろうろしてるので、ひめりが隠れてることにも気づかない。

ひめり じゃあ、二人がこっちに近づいてきたのを見計らつて、茂みの中から、いきなり目の前に現れる。耳としつぽを残して、脣だから『変身』のコストは4。

両手をパンザイの格好で。「ばあーーー！」

語り手 それは『びっくり』だな。『へんげ』で相手の一番高い能力値をどれくらい上回るかで、相手の驚き方が変わるぞ。

ひめり じゃあ、『へんげ』3+『想い』1点で4。

語り手／兄弟 「ぎやーーーーー！」二人して大声を上げたぞ。でも逃げ出したりはしなかつた。

ひめり 「やつたーーーーー！」久しぶりにいたずら成功して嬉しい！

くちば いえーい大成功！

竜胆 「やつたーーーーー！」久しぶりにいたずら成功して嬉しい！

ひめり 「やつたーーーーー！」久しぶりにいたずら成功して嬉しい！

くちば いえーい大成功！

竜胆 一体何をしとるんだか……。

ひめり ここで『やんちゃ』が発動だぜい。自分以外の参加者分の『夢』

をゲットさせていただく。

語り手 さてさて、弟のほうは兄の背中に隠れてるが、兄のほうは弟を庇うように、ひめりを警戒してる。

ひめり （やつべーーーーーのあとの展開を考えてなかつたわ……）パンザ

イのポーズのまま硬直。

竜胆 （詰めが甘いのう……）にやにや。

くちば あたしはもう一仕事やりとげた気分になつてる。

語り手／兄 「何だお前、いきなり現われて！ しかも変な耳つけて！」

ひめり 内心ドキドキなのは言うまでもない。

耳を隠しつつ、「耳？ ……こ、これはあれよ！ オシャレよ！ まあ、おこちやまにはまだ早かつたかしらー！？」と、じりじり後ずさりながら（笑）

（くちばー！ わたしを助けてーーー！）と内心ドキドキ。

くちば くちばー！ わたしを助けてーーー！ と内心ドキドキ。

テレパシーとか無理なんで……なにしてるんだろ、あの子？ とつぶくにどこかに走つていって物陰から見守つているあたしだ

ひめり くちばー！ わたしを助けてーーー！ と内心ドキドキ。

語り手／兄 「うるせえっ！ 僕たちに何の用だよ！ 僕たちは忙しいんだから、ぜーつたいついて来るんじやねえぞ！！！」と言つて、兄

はまだおどおどして弟の手を引っ張つて林道に戻つていく。

ひめり 「ふ、ふん！ あんたらなんかに用はないわよおー！」と、後ろ姿に叫ぼう。

語り手 じゃあ、振り向いてあつかんべーしてやるつ！

ひめり じゃあ、こつちはダブルあつかんべーだ！

くちば 子供がいなくなつたところで戻つてきた。「いやあ、大成功ね！」

ひめり 「うつさいわよ！ ちくしょーーー！」

くちば 「怒られた！？」

竜胆 木の上からすとんと降りてくる。「元気じやの、おまえら……」

語り手 つてところでそろそろ場面を終わるけど、その前に印象判定してみよう。印象判定できるのは、この場で二人の前に姿を現したひめりとくちばだけ。相手の名前は、「ユウキ＆ダイキ」で1

人扱いね。ユウキが兄でダイキが弟だ。

うむ。

竜胆 （印象表を見て）『けもの』だと『愛情』か『信頼』しか取らせられないのか……。

くちば 表にあるのはあくまでも目安だから、「その能力値を使つて、相手にどうしてそう思わせたのか」が説明できるなら他のでもいいよ。

くちば じゃあ『けもの』で4。追いつけなかつたのは悔しかろう！

語り手 なら、『対抗』で取ろう。

ひめり こつちも『想い』1点使つて、『けもの』4。あれば言い合いしてたし、『対抗』つぽいかな？ 次会つた時も仲良くとはいかないだろうし。

語り手 それはどちらかというと『こども』じゃないか？

ひめり じゃあ、隠れていきなり驚かせたことで、むつとさせちゃったかも。

語り手 それなら『対抗』になりそうだね。

場面2 鈎鐘山脇の林道・昼

語り手 あれからしばらくして。

先ほど得意げに山のほうへと向かつていった一人だが、今度は向かつた方向から歩いて戻つてくる。表情もさつきとは逆で、しょんぼりとしたよう見えるね。肩を落として、とぼとぼと歩いてくる様子は、何かとても落胆しているようだ。

くちば おや、どうしたのかな？

竜胆 まあ、見てしよう。

ひめり そそくさと隠れながら様子を伺おう。「ケケケ……また驚かしてやるわ……」でもしょんぼり顔を見て、思い止まる。

耳としつぽ残して『変身』して、普通に後ろから声をかける。

語り手／兄弟 「わあっ！？」

ひめり 「きやあ！ い、いきなり大きな声出さんじやないわよ！」

語り手／兄 「なんだまたお前か！ ついてくるなつて言つたろう！」八

ひめり 「ついて行つてなんて無いわよ！ あんたらが勝手にこつちきたんでしょ！」

語り手／兄 「うるさい！ オレの秘密基地を壊したのはお前だろ！ こ

んなところに来る奴なんて他にいないからな、お前しかいないぞ！」

ひめり 「秘密基地い？ そんなもんしらないわよ！」

語り手／兄 「だつたら他に誰が壊したつていうんだよ！？ お前じやないって言うなら犯人を見つけてくださいー」イーだ！

くちば 完全に八つ当たりだ（笑）

ひめり 「はあ！？ 何その言い方！ じゃあ、いいですー！ 犯人見つけちゃいますー！」負けじとイーだ！「後で吠え面かかせてやるわよ！」

語り手／兄 「どうぞー、できるもんならやつてみなー！ 変な格好してるくせにー」

ひめり 「変な格好つて言うんじゃないわよ！」

くちば ようし、ここで出て行こうかな。面白そうな流れになつてきたし。『ふしぎ』2点、『想い』2点から耳としつぽ残して『変身』ー。

ひめり 仲裁者が二人も（笑）

くちば 仲裁はしないよ！ ほら、耳としつぽつきが二人いれば、変とも言い切れないと思わない？ 多数決で引き分けに持ち込めるはず！

いや変だから（笑）

くちば 「話は聞かせてもらつたよ！」聞いてただけだけど！

ひめり じゃあ、いきなり出てきたくちばにギョッとしつづ、「な、何しにきたのよお！？」

語り手／兄 いやあ、さすがに年上のお姉さんが登場すると、さすがの兄もたじたじしてしまうぞ。「だつてこいつがー……」上目遣いでくちばをちらり。

ひめり 「あいつが悪いんですー」くちばに寄り添いながら。

くちば 「この子はいたずら好きでしょっちゅうなんかやらかしてるけ

ど、人のものを壊したりなんかしないはずよ？ むしろ秘密基地なんて面白いものは奪い取るタイプ！」 力強く断言するよ！

語り手 フォローになつてねえ（笑）

本当に何しに来んだよ（笑） 「そそう、奪い取る……つて、

何言つてんのよ！ 断言すんじやないわよ！」

くちば 「違うの！？」

くちば 「違うわよ！」 自信満々に。

くちば 「そうよね、それでこそひめりちゃん！」

くちば 「もつと褒めなさい！」

くちば 「やばい、バカしかいないぞ（笑）

竜胆 バカしかいないからこそ円満に解決できるんじやないか？

語り手 その辺で弟が、「二人とも、落ち着いてよう……」と、おどおど

しながら二人の間に割つて入る。目線は、ひめりの耳としつぽ

に釘付け。すると兄も「う……うーん……壊されてたから、違う

のかな……？」と、ちょっとびりバツが悪そうに。

くちば 「なんの話だつけ……そそう、秘密基地ね。犯人探し？」

ひめり 「あ、そうだ！ あたしたちが真犯人見つけたら、あんたらの秘

密基地はあたしたちの物つてことしてやるわ」

くちば 「なんて知略……恐ろしい子！」

語り手／兄 「仕方ねえな……『使わせてやる』くらいはしてやらあ！」

ひめり 「え……まあ、それでいいわよ。そのかわり、わたしが秘密基

地の大将ね！」

くちば 「あたしじゃなくて？」

くちば 「くちばは隊長よ」

くちば 「なるほど、悪くない！」

語り手／兄 「は？ 何いつてんの？ オレはオーナーなんだからオレに

従えよ！」

くちば 「お、おーな……？」

ひめり 「おーなー？ む、難しい言葉で誤魔化すんじやないわよ！ 大

将が一番偉いんですー！」

語り手／兄 「オーナーも知らないの？ やーいパークパーク！」

ひめり 「ば、ば、バカつて言つたな！ バカつて言つた方がバカなんで

すー！ やーいパークパーク！」

ひめり 「うるせえ！ バカにバカつていつて何が悪い！」 などと言

い争つてる間に、どうやらお兄ちゃんのほうはすっかり元気に

なつちやつたようだ。

くちば 「これもすべてけいさんのうち。

語り手 それは本当か……？」

くちば 「嘘です（笑）

ひめり 「くちばが急に怖くなつてきたぞ（笑）

竜胆 もういい、収集がつかなくなつてきたから出るぞ。

一 同 お願いします。

竜胆 ええと、『想い』と『ふしぎ』それぞれ4点使つて、完全に『変身』。

で、上の木からすとつと降りてくる。

「先から見とれば何をぎやあぎやあ喚いておる……」

語り手／兄 「誰だつ！？」

ひめり 「あ、竜胆！ 今更何しにきたのよ シュツシュツ！」 竜胆に向

けてシャドーボクシングしながら。

くちば 「なんで撃退しようとしてんの（笑）

ひめり 山のラスボスだから（笑）

くちば 「そういうえば『対抗心』あつたんだつたね……。

語り手／兄弟 「だつてこいつが……」「兄ちゃん、もういいよ……」「よ

くない！ オレが3日かけて作つた秘密基地なんだぞ！ 壊さ

れてタダで済ませられると思うかよ！」

くちば 「あたし悪くないもん……隊長だし……」

ひめり

「アホはこいつだけです！」兄を指さしながら。

竜胆

「やめんか狸。話がちらとも進んでおらんではないか、阿呆。四人も揃つて……。」

さて……で、ひみつきち、とやらが壊されたと？ 今騒いでど

るのはそれだな？」

くちば

「竜胆、あんたなんか知らな……やっぱいや、犯人見つけたら秘密基地もらえるし」

語り手／兄

「そうだよ、折角時間をかけて作ったのに、さつき見たらゴ

ミで埋められてた……」

竜胆

「ふん……まあ、作つたものが壊されるのはいい気分はせん。それはわかるが、このような場で騒いでおつても時間の無駄である」

語り手／兄

「……まあそうだけど」

竜胆

「で、どつちじや？ ひみつきちを壊した者を見つけたいのか、早々にひみつきちを作り直したいのか、どつちじや？」

くちば

「はーい。犯人見つけないとまた壊されると思いまーす！」

ひめり

くちば微妙に空氣読めねえ（笑）

竜胆

しかし真理と言えば真理じやな……！」

くちば

『せつかち』なので……遠回りは嫌いなのー。

語り手／兄

「別に基地は作り直せるからいいけれど……壊した奴は見つけてコーギしてやる！」

ひめり

「確かに、あたしの基地を壊すのは許せないわ！ コーギーしましよう！」

語り手／兄

「見つけるのを手伝つてくれるなら、仕方ないから大将にでも隊長にでもなつていいよ。でもオーナーはオレだからな！」

竜胆

輝くばかり頭の悪さだな、ひめり。

語り手

全く噛み合わせる気がねえな（笑）

ひめり

「ふん、オーナーくらい認めてやるわよ！ なにせ大将だから

ね！」

くちば

「りんどー、オーナーって大将とか隊長よりえらいの？」

竜胆

「まあ、偉いとも言える……そもそもひみつきちに経営者というのも妙な話ではあるがな……まあ、本人たちが認めておるならいいじゃろ」

くちば

「つまりどういうこと……？ まあいや、隊長だし」

ひめり

「で、どつちが偉いのよ？」

語り手／兄

「当然オレ！」

ひめり

「あたしに決まつてんでしょう！」

竜胆

「オーナーとはひみつきちを所有するもの。大将とは組織の中の管理者。まあ、どつちがえらいかは考えろ」

くちば

「弟が役職もえなくてかわいそうだ。」

語り手／弟

「ボクもリーダーくらいにはなりたい……」弟なんてそんな

くちば

「もんです（笑）

くちば

平隊員の弟。

竜胆

「かわいそうに。せめて尉官くらいは貰え。」

ひめり

「あんたは二等兵よ なんか色々出来ると思うわ」

語り手／弟

「やだ！ 一等がいい！」

竜胆

「一等で良いのか。欲のない奴

ひめり

「バカねえ、一より二の方が大きいでしょ？ だから二等兵の方

竜胆

が偉いに決まつてるでしょ」

語り手

「お前、もう黙つた方がいいんではないか？」

ひめり

「さすがに一等賞のほうが二等賞よりいいことくらいは知つてるつて（笑）

竜胆

「はあ……おれは竜胆という。そつちの落ち着きのないのがくち

ひめり

ば、そつちの少々頭の足りなそうなのがひめりだ」

「頭が足りなかつたら、死んじやうじゃない。バカねーブブブ

(笑)

語り手 猿つてこんなに頭の悪い動物だつたつけ……?

ひめり ……流石にこれ以上バカにはならないと思うよ、うん。

語り手／兄 「オレは秘密基地オーナーのユウキで、こいつはダイキ！」

じゃあ、早速犯人の手がかりを捜しにいこうぜ！」

竜胆 で、印象判定、と。能力値は……『へんげ』かな……? 改め

てみると結構異様な雰囲気してんじやないかと思うし。『想い』

を1使つて4。

語り手 見事、場を仕切つた竜胆には、『尊敬』を貰おう。

竜胆 「で、兎と狸。くちばとひめりだつたな？ お前らも手伝うので

あろう？」

くちば 「もちろんよ。まずは現場よね！ 捜査の基本は現場百篇……千

だつけ？ そんなわけでレツツゴー！」一人走り出すあたし！

でも、しばらくしたらすごすご戻ってきます。「……ところで、どこ？」

場面3 不法投棄現場・昼

くちば 「想い」2、「ふしぎ」2で耳としつぽ残しの『変身』を継続。今

同じく。

ひめり 4点ずつ消費して完全変身を崩さず。しかし、昼間に完全変身

くちば なんてするものではないな……。

竜胆 ひめり 耳としつぽ出せばいいのに（笑）

くちば まあ、そなんだがな？ 次からそうするとするか……。

竜胆 語り手 处理が終わつたなら場面を開始しよう。君たちはユウキに連れ

られて、秘密基地があつたという場所に向かう。林道の分岐を

釣鐘山とは違う方、隣の山の方角へと進んでいく。

この林道は人が歩けるくらいの幅しかなくて車は通れないんだが、しばらく行けば山の反対まで続いている別の道路に繋がつて、そこなら車も通ることができる。君たちもそのことは知っているよ。

ひめり 整備はあんまりされてない感じかな。

語り手 そこをしばらく行くと、道脇の土手の下に、少し人目のつきにくい窪地がある。どうやらユウキは、ここにダンボールで基地を作つたらしい。どうしてこんな場所に作つたのかとツッコミを入れたくなるような場所だ。

くちば で、その窪地なのだが……なんか家具とか家電が捨ててありますぐな。

誰かからのプレゼント？ あ、でも電気はないよね。

語り手 電気なんて通つてるわけがあるまい（笑）それじゃあ『おとな』

2出せる人はいるかな？ 4あるとわかる別の情報もあるぞ。

ひめり 無理さ

くちば じゃあ『想い』1点使つて2。4まではする気がないよ。竜胆に任せた！。

竜胆 『想い』を2点使つて4。

語り手 では竜胆とくちばは、これはいわゆる「不法投棄」というものだとわかるね。

竜胆 なるほど。

語り手 そしてさらに竜胆は、捨てられてる家具をじ一つと見ているうちに、ふと気づく。家具は、ちょうど人間1世帯で使うもののがだね。テレビ1台に、冷蔵庫も1台だけ。なので、ゴミ回収業者が手当たり次第に放り込んだ、という感じではない。

竜胆 どこかの家庭が適当に起き去つたもの、というわけだ。

くちば 一人暮らしの人が、部屋を引き払うときに要らないものを捨て

語り手 ていったとか?

そんな感じだねえ。だがさうに言うならば、それにしては逆に足りない家具もあるようだ。クローゼットはあるのにタンスはない、とか、アイロンはあるのに掃除機はない、とか。

ひめり どんな基準だ?

語り手 さあどうだろう?

竜胆 車が通れると言つていたし……車に積んでここに放り出してとんずらしたんだろうな。

語り手 ところで皆、改めて『けもの』判定。目標値は5だぞ!

竜胆 無理無理。さあ兎、お前の出番だ!

くちば じゃあ『想い』1点使つて成功!

ひめり こつちも『想い』2点使つて成功します。

語り手 くちばは、その粗大ゴミの山の中で、何か小さいものがカサカサと動いたのに気づいた。

くちば 「む、……なんか、いる」あそこ、と指差す。

竜胆 「何かしら……?」

語り手 なんともかわいい、茶色い姿の……ゴキちゃんで一つず☆

ひめり おいい!

竜胆 貴様か……! かわいくないぞ、全然かわいくないぞ。

語り手 で、そのゴキは、「わわっ」と驚いて物影に隠れてしまう。

竜胆 あん?

くちば え?

ひめり ゴキが喋った!?

語り手 『へんげ』で3出せる人いる?

くちば 一応成功しこう……『想い』2消費。

ひめり 『へんげ』なら元々3。

竜胆 同じく。しかしこれは、ゴキブリの変化という……アレな可能

語り手 性が思い浮かんで……だな……。

可能性どころかその通りですが。今のはゴキが変化であることを見抜く判定だったのだ。

ひめり ゴキの変化なんているんだ……世界は広いな。

語り手 あるけどさあ。

くちば オス? メス?

竜胆 1匹見つけたら……。

ひめり 30匹いると思え……。

語り手 オス。なので、子供がぶわーっとことはないから安心したまえ。

くちば 「あつ、こら逃げるな隠れるな!」隠れたゴキを追つて、一目散に走つていく兎です。

ゴキに勇猛果敢に挑んでいくおねえちゃんになつた! 尊敬してもいいのよ!

くちばには迫いつかないから、待機。

語り手／ゴキ 「ひい～お助けを～! 新聞紙はいや～! スリッパも勘弁～!」

くちば 「新聞紙もスリッパもないから、逃げるな!」

語り手／ゴキ 「……ホント? 騙すのはやだよ? 前にいい匂いに騙されて大変なことになつたんだもん……」

竜胆 ホイホイされてんじやない笑)

ひめり よく逃げ出したな(笑)

語り手 ゴキは君たちを警戒して、じつと隙間からこちらの様子を伺つてゐる。

くちば 「えつと、まあ、なに、……あつ、そだ。証言!」とりあえず止めてからなんて止めたのか考えました。

語り手／ゴキ 「まつたく、突然隙間が開いたから慌てて片方の壁に取り付いたと思ったら、気づいたらこんなところにいたよ……一体

どうなつてゐるんだろ？」

くちば そういうえば、人語を喋りながら逃げるゴキが目の前にいるわけ
だけど、兄弟はそんなの目撃しちやつて大丈夫ですか？
体も小さいし、そんなに大きな声じやないから、幸い二人には
聞こえてないみたいだねえ。

くちば

兎の耳だから聞こえてたつて感じか。ぴくぴく。でも、ゴキと
話し合つてゐるのを見せるのもまずいでしょ……。

竜胆 どうするかのう……情緒が未成熟な子供を人語を喋りまくるゴ
キなんかに引き合せたら、将来に暗い影を落とすのは必至
……。（小声で）おいゴキ、「変身」はできるか？」

語り手 促されるなら化けよう。額からびよーんと長い触角が出た、茶
色っぽい半袖半ズボンのショタつ子が現われた。

くちば 気持ち悪いのう、完全に人化せい！

くちば くちば でもまあ、これ以上は望むまい……。

語り手 兄弟は突然現わされた人に混乱してるので、適当に言いくるめて
やれ。

ひめり 「あ！ えーとどこいつはー……」えーと……。

くちば 竜胆 「あ、あく……かくれんぼでもしていたんだろう！ きつとそ
うに違はあるまい！」

くちば ナイスフォロー！（ぐつと親指を立てる）

ひめり 語り手 語り手 ニュウキは、自分の秘密の場所が、結構秘密でも何
でもなかつたという事実に、落胆してるように見える。

竜胆 まあ、人間の共存せしむるゴキの存在を知るより良いだろ。
では改めて、人間の姿になつたところで、礼儀正しく自己紹介を。

語り手 「あたしはくちば、こつちはひめり、あつちのが竜胆で、あれが
くちば

ユウキとダイキ」先手を打つて挨拶。

語り手／ゴキ 「始めてまして、えーと……こういう時、名前を名乗るもの
だよね……でもそういう習慣ないから、どうしよう……？」

ひめり 「適当に名前言えればいいのよ。早くしないと、ゴキ子つて呼ぶわ
よ」

語り手／ゴキ 「男の子だしう！」

竜胆 「茶葉 称太郎」とでも名乗つておきたまえチャバネゴキブリ君。

語り手／ゴキ 「……じやあネタロウで」

ひめり 「三年くらい寝てそうな名前ね」

くちば 「あんた、いつからここにいたの？」あたしたち、ここにこれを
捨てた犯人を捜してゐるんだけどさ」

語り手／ネタロウ 「……僕がここについたのは、昨日の夜のことだつた
よ」

くちば 「この家具とかと一緒に来たの？」

語り手／ネタロウ 「家具つて、この壁のこと？」うん、これにくつつい
てたらこんなところに」

ひめり 言葉にとつては、家具も壁も似たようなもんだからな。

くちば 「そいつらが犯人つてことかな。つてか、あんた帰り道わからな
くなつてゐるの？」

語り手／ネタロウ 「わかつてたら、苦労しないよ！」

ひめり そういえばここに置き去りにされる時、人間達が何か喋つてた
けれど、よく話を聞いてれば帰る方法わかつたのかなあ？『じゃ
あ明日はタンスだな』つて、どういう意味だかわかる？その時
に人間たちが言つてたんだけど」

竜胆 「ほう」
くちば 「へえ……明日つて、つまり今日なのよね？」
竜胆 昨日の夜の話だものな。

ひめり つまり、今日またくるのかな?

竜胆 「そいつは今夜またここに来ると言つことだな。ここにある家具

たちのように、今度はタンスを捨てに来ると言うわけだ。どうやら、車一台では足りなかつたと見える」

くちば 「来たらとつつかまえて……あんたも帰り道が見つかるかもね!」

語り手／ネタロウ 「じやあ、その時に一緒にいけばいいんだね! わかつた!」

くちば 「ふふん、あたしつてば名タンテー!」

ひめり 「……ちよつと! あたし抜きで話を進めんじやないわよ!」

語り手 そういうやネタロウとの印象判定してないな、そろそろしておく

ひめり ゴキに印象判定かあ……。

くちば えーと、じやあ『けもの』4。逃げるのを制して、解決の道筋

まで示したあたしの働き!

語り手 そうだな、『信頼』しよう。ネタロウからも、くちばに『こども』

4で印象判定しておこう。おどおどしててかわいいぞー。

くちば なんかやだなー(笑) ジやあ『保護』で。

『ふしぎ』で4……といつても、話を率先して進めたのはくちば

だしな。

語り手 竜胆は、雰囲気からして立場のある変化っぽいから『尊敬』しておこう。

ひめり んー、特にどんな印象つても思いつかないからパシー。

語り手 そんなこんなをしていると、さつきから周囲でいろいろひつく

り返して捜査っぽいことをしていたユウキとダイキが、「なんかわかつたー?」と聞いてくる。

竜胆 「今日の夜、ここにゴミを捨てて行つた不埒者がまた来るそうだぞ」

くちば 「証言が得られたわ。絶対確實間違いなし!」

ひめり 「くちばのお手柄よ!」無意味に偉そうにしながら

語り手／兄弟 「ホント!? よーし、オレたちの秘密基地にゴミを捨てた悪い奴を、こらしめてやるぞー!」

くちば 「おー!」

ひめり 「……まちなさい!」

くちば 「!」

ひめり 「こういう時は、作戦を考えるのがカッコイイのよ! そろ……

語り手／兄弟 「作戦よ!」

くちば 「ひめり……冴えてるね!」親指を立てるつ!

竜胆 「で……何か考えはあるのか?」

ひめり 「ふふん、それはね……えーっと……ダイキ一等兵! あなたが

考えるのよね!」

くちば 一等兵が作戦指揮官だと!?

竜胆 出世したではないか。

くちば あたし隊長なのに。

ひめり うちには軍師がないからな。

くちば 竜胆さんが顧問に抜擢される日も近い。

語り手／兄弟 「え……? えーと……」「ほらダイキ、何か考えるんだよ!」「兄ちゃんうるさい! そんなに急かされたら思いつかないよ……」

ひめり 「はい時間切れー! 次、ユウキオーナー! 手でばつてんマ

クを作りながら。

竜胆 それにもこの狸ノリノリである。

語り手／ユウキ 「え、オレ! ? え…えーとだな……例えば、ゴミを

捨てようとしたらいつせいに石を投げつけるとか……」「元気ですよー！！」無駄にテンション上げてく謎。

ひめり 「石なんか投げたら痛いでしょーがあ！ 相手を思いやる気持ちを持ちなさい！」

くちば 「それに、逃げ足に自信がないとねー！」

くちば 「元気ですよー！！」無駄にテンション上げてく謎。

ひめり 「そうですかー！！！」

竜胆 「お前、それは余りにもぞんざいに過ぎるぞ？」

竜胆 「お前、それは余りにもぞんざいに過ぎるぞ？」

くちば 「じゃあ次、くちば！ 隊長は作戦考えるもんでしょ？」

くちば 「じゃあ、どうしろってのよー。っていうか、あんたも何か案出ししなさいよ」

ひめり 「え！？ エー、エーと。まず夜を待つ。来る。……おどかす」

ひめり 「だが、まあ、なんだな……おどかすのはよい。だが……それだけではぬるい、そう思わんか？」と、にやにやしながら。

語り手／ユウキ 「車で来るつてことは大人だろ？ 大人がおどかした程度で驚くわけないだろー！」

語り手／ユウキ 「車で来るつてことは大人だろ？ 大人がおどかした程度で驚くわけないだろー！」

くちば 「くつ……！ ジヤ、ジヤあじやあ……！」

竜胆 「で、ひめり。お前の案とは？」

竜胆 「そこでわたしの出番よ！ わたしの必殺超驚き殺法で腰がなくなるくらいビビらせる！」

竜胆 「おまえら、奴が何でここまで来ると思う？ 徒歩か？ 自転車か？ どちらでもない……車ぞ。」

ひめり 「夜を待つ→来る→超驚き殺法で腰がなくなる→解決！」

人間と言うのはな、自動車というものを大事にしたがる。なにかと有用なようでは、傷一つ付くだけでも血相を変えよるものもある。

語り手／ユウキ （胡散臭いものでも見るような目）

そんな自動車を、わざわざバカが持つて来よると言うのだ。それを弄つてやらんで何を弄ると言うのだ？」

くちば 「ちつ……竜胆のくせに良い事言うじゃない」

くちば 「すごい！ 竜胆えげつなーい！」

ひめり 「山の中にこのようなゴミなぞ積みよつて、無礼この上ない……

ひめり 「一夜限りの恐怖で済ましてなぞやらんわ」にやり。

くちば 「あれつ、なにこれ超不穏！ なんかちょっと笑つてるんですけどー！」

くちば 「山にゴミを捨てた車」って書いておこうぜ！」

ひめり 「あの程度、お遊びにすぎないの。ひめりが本気を出せば……とにかく、すごい」（にやり）

ひめり 「竜胆、こんな言葉を知つてゐる？ 元氣があれば、なんでも出来る」つて言葉を……」

くちば 「あ、あれ……？ 実は竜胆、かなり怒つてゐる……の？」おろおろしてゐる。

ひめり 「元氣ですかーーー？」全員に向かって。

ひめり 竜胆の不気味な雰囲気に、そそくさとくちばの背中に回る。くちばの後ろから、「はん! 犯人のついでにあなたの腰も消し去つてやるわ!」

語り手 しかし兄弟は、ふと我に返ったように呟く。

語り手/ダイキ 「でも考えたら夜だよね……うちはお父さんもお母さんも早く寝なさいってうるさいから、夜中に出かけるなんてムリだよ」

語り手/ユウキ 「バカやろう! こんな時くらいこつそり家を抜け出し

たつていいだろ!」

場面3-5 ここらでちょっと作戦会議

くちば さあ、ユウキとダイキは抜け出してこれるのかどうか。

竜胆 元気があれば何でもできるんだろう?

くちば ……がんばれっ!

ひめり なんかサポートできないかなあ?

くちば 『たすけて』で、通りかかつてもらうとか……。説明文にあるよう

うに「偶然」ってわけでもないんだけど、これ、使つてもいい?

OKとしておこう。

竜胆 で、ひめりは何らかの形でターゲットをおどかすんだったな?

ひめり 『ふしぎ』が16になると思うから、結構やれる。

竜胆 よし。ならば、車からあいつを離すためにおびき寄せる必要がある。それはこっちに任せてもよい。

くちば ネタロウはどうする?

竜胆 ネタロウは……奴の新居で大いに繁殖していただく。

語り手

じやあ近くの木の上で、飛び込むタイミングを待つておくよ。兄弟は最初隠れておいて、フリーになつた車に好き放題やつて貰おう。

ひめりが車から離れていないと、兄弟がやりたい放題やる時間が取れない。ちょっと離れたところでスタンバイしていくくれないか?

ひめり 了解。

くちば ギリギリのタイミングで二人を呼び出すほうがなんか燃えそうなのでそういう方向で行きたい(笑) ひめりが驚かせる直前に

『たすけて』を使うつもりです。

竜胆 それでは車にあれこれする時間が取れなくないか?

くちば そつか、じゃあ竜胆が犯人を車から引き離したら、で。何か問題が起こつたら『だつしゅ』で一緒に逃げるので、兄弟のこと

は心配しないでください。

場面4 不法投棄現場・夜

くちば 『想い』を2点消費して、耳としつぽ残しの『変身』!

竜胆 こつちも同じく。

ひめり 同じく!

語り手 さて、夜になつた。皆とネタロウは現場近くで待機しているが、ユウキとダイキはまだ来ない。もしかしたら、親に見つかって来れないのかもね。

くちば 「二人とも遅いねえ……まだかな?」

ひめり 「なんかあつたんじゃないでしようねえ……。つたく! 来なかつたらオーナーやめさせてやるんだから!」 イライラしながら。

くちば 作戦の説明はしてあるのよね?

語り手 うん、そういうことにしておこう。

二人は一度家に帰る際に、「もしもダメだったら、代わりにあいつらをやつづけてくれ!」と言つてたよ。最悪、この場にいる

竜胆

人だけでやることになるかもしないね。

「一番燃えておつたのはあいつらだしのう……。くちば、あの二人が来たら、一緒に車を滅茶苦茶にしてもよいぞ。遠慮はいらんからな」

「りょ、りょうかーい」

語り手 そうこうしてると時刻ももう真夜中。静寂の中に、虫の音だけが響いている。そんなところで誰か、『けもの』で判定をしておくれ。高ければ高いほど先手を取れるよ。

くちば じゃあ『想い』4点突つこんで8！ 耳がびくびくと動いて……気配を察知！

ひめり くちばの本気！

語り手 わお、それは凄い。するとくちばの耳は、ヘッドライトが森の中にチラリと見えるよりも早く、自動車のエンジン音が近づいてくるのに気がついた。この辺で車の通れる道は一本だから、間違いないくちばに来るはずだね。

今からなら、車がやつてくるよりも早く完全に準備が整えられるよ。

くちば 「……来た！ 車だ！」

竜胆 さすが、聴覚にかけては……。

くちば 長い耳は伊達じゃないね。「よーし！ 作戦開始よ！」と言つてコソコソ、秘密基地の脇に隠れとこう。

くちば 「じゃ、あたしはあっちに。がんばろ！」その辺で拾つた10円玉とか、残りが怪しいスプレーとか握りしめながら。

でも、「結局あの二人、来なかつたなあ……」と、寂しそうに耳が垂れてる。兄弟がないと、武器があまり手に入らないのだ。油性マジックを持って来るよう言つたんだがなあ。

「さあ、來たな。主役はお前だ、期待しておるぞ、ひめり」

さて、こつちはおびき寄せなきやいかんからな。それでも、本

竜胆

語り手

本当に捨てたところを見届けてからだ……。

語り手 そんなことはつゆ知らず、小型トラックにタンスや布団を載せて、二人の男が鼻歌まじりでやつてくる。助手席にいるのはチャラそうな、顎の細い顔の男。運転席にいるのは四角い顔の堅物

そうな男。

竜胆 ほう、二人組だつたか。

くちば 話をしてたつて言つてたしね、ネタロウ。

竜胆 そうか、そういうえばそうだつたな。

語り手／チャラ男 「悪いなー、こんな夜まで二晩連続で付き合わせちまつて。軽トラ持つてるのがお前しかいなかつたからよー」

語り手／四角顔の男 「それくらいなら構わんが、本当にこんな場所に捨ててよかつたのか？ 後で持ち主がバレても知らんぞ？」

語り手／チャラ男 「まあ、見つかつたところでお前には迷惑かからねーから気にすんな、どうせ身バレするようなものは持つてきてねーしなー」

くちば ノーテンキなこと言つてくれちゃつてまあ……。

ひめり 「ケケケ……のんきにしてられるのも今のうちよ……」

語り手／四角顔の男 「知らねえぞー？ 何かヘンなもんに祟られたりするかもしれないからなー」と、冗談めいた口調で。

竜胆 捨てるのを見届け次第、ひめりのところに誘導する。捨てた時間が……最期だ……。

語り手 そうこうしているうちに、車は少し広くなつているところでバツクして、秘密基地のあつた辺りにやつてくる。二人組は車を止めるとそこから降り、力を合わせて荷物を捨て始めるね。

ほう、ほう……。にやり。

くちば 「……現行犯！」

あ、兄弟は今呼ぼう。そのほうが間違いないや。ここで《たすけて》

竜胆

を使って、ユウキとダイキを登場させます。呟いたあたしの後ろあたりから。

語り手 じゃあ、がさごそと草をかきわけてユウキとダイキが。

くちば 「（小声で）遅かつたじやないもう！」

語り手／ユウキ 「ごめん……お母さんがドラマ見てる隙に急いで抜け出してきた！」

くちば 「よーしい子いい子。隊長が褒めてつかわす！ ところで見た？」
あれ

語り手／兄弟 「うわ……ひつでえ……」「ひつでー」

竜胆 よしよし。では始めるぞ。三人とも、やるだけやれよ。

語り手 ちよいと待つた。ところが元より静寂な林道のこと、兄弟とく

ちばの会話は、内容まではわからないものの、二人組も誰かがいるつてことに気づいてしまうのだな。布団を下に落としたところで、「誰かいるのか？」と周囲を見回す。

くちば やばっ！ 一人とも、息も上がつたろうしねえ。
竜胆 ではそこで、『ひのたま』を使わせていただく。しつぽの先をぼうと燃えたよう輝かせる。『想い』を4点使って、『へんげ』7で確実に引きずりこんだろう。

語り手 そりや引っかかるらざるを得まい。二人組は辺りを見回すと、何か光るものを見つけるわけだ。

竜胆 ふわふわ動かしながら、ゆっくり誘導しよう。ほれ、こっちこい。

語り手／二人組 「なんだあれ……？」「やばいな、誰かに見つかったんじやないか？」「まあ、ちょっと脅せば黙つておいてくれるさ」

そんな会話があつて、チヤラ男のほうが狐火のほうへ。四角顔の男も、「おい、待てよ！」とそれを追いかけていく。

そのままひめりの方に連れてくよ。ふわっとひめりのところまで行つて、「さ、出番だぞ……」とひめりに囁き声で。

ひめり ケケケ……来たなあ……。チヤラ男が先に来るんだよね？ 会話からして、主犯はそいつだな。

竜胆 『ふしぎ』全部使って、チヤラ男に『ゆめまぼろし』を使う。「えーと、確か……ムニヤムニヤ」と何か唱えて、（さあ！）必殺超驚

き殺法を食らうがいいわ！）と腹太鼓を一つ打つと、チヤラ男は夢の世界へ。不法投棄したゴミが恨みつらみを言いながら襲つてくる幻を（笑）

竜胆 こわつ（笑）
くちば いい夢だ（笑）

ひめり 後から近づいてくる四角顔の男も、捨てたゴミに見える。もちろん恨み言を言いながら……。

四角顔の男のほうは、殴りかかるくらいの勢いにしよう。チヤラ男が反撃すれば万々歳！

竜胆 ワルいなあ（笑）
ひめり 『想い』3使って『へんげ』6。もし『びっくり』したら、『やんちゃ』使うね！

語り手 それならチヤラ男は、「何だ……？ 捨てたはずのテレビが光つたのか……？ どこに電源があるんだ……？」と呟いていたかと思うと、「うわっ！？ 画面から何か出てきたつ！？ ひえ～～！」と叫んで逃げ出す。

ひめり 「よくも捨ててくれたなあ～、呪つてやる～」

語り手 そして追つてきた運転席の男の姿を見ると、「今度は冷蔵庫

ひめり か～！」と喚いたかと思うと、突破しようと全力でタックルを。その男も、「おい、待てよ！」とそれを追いかけていく。

語り手／二人組 「ひい～つ！！ 嫌だあ！ まだ死にたくない～～！！」
だあ！



いらないよ。

「やば！」

くちば
ひめり 「折角だし『だつしゅ』使うー。ほら一人とも、手え離さないでね！」兄弟を連れて安全なところまで逃げる！ 手を引っ張つて離脱！

「はーい！」

語り手／兄弟 「はーい！」

ひめり 「わたしも連れていきなさいよー！」後を追いながら。

くちば
「しーらーなーい！」

語り手
くちば
「そしてくちば達が逃げた後、無残な姿になつたトラックの目の前で呆然とする、運転席の男。

竜胆
さあて、こちらは隠れたまま、リアクションを堪能しないとな！ ではそうすると、二人組は竜胆の前で「……なあ、幻覚だつたんだよな？」「そう言つたのはお前だろ……？」と顔を見合わせると、「ひえ～～つ！！」ごめんなさいもうしませ～～～ん！！！」と絶叫し、捨てた荷物に謝りながら捨てるだけ捨て、猛スピードで車を飛ばして来た道を帰つていつた。

竜胆
「…………ふ……ふつ、ふふふ、はつははは……あつはつはつはつはつはつは！」

ひめり 「事故るんじゃないわよー」と、去つていく車を見ながら。

くちば
語り手
くちば
「ネタロウは上手くまぎれこんだろうか？」

竜胆
うん、荷台の上から、ひらひらと振られる小さな手が見えたよ。「いやあ、愉快だつたの！ま、少々氣の毒ではあるが、いい薬になつたであろう。くつくくく……」

くちば
ひめり 「う、うん、そうだね……。もう来ないといいね……」「ケケケ！ 来たらまたやつてやるわ！」

語り手 では、それから数日後。その後新たに建設した秘密基地に、登校日が終わつて帰つてきたユウキとダイキがやつてくる。「おー

い、大将と隊長はいるかー？」

くちば
ひめり 慌てて変身して、「いるわよ！」と、一番高いところから登場。

くちば
「いるいるー。お餅食べる？ おいしいよ」つきたてだからよく伸びる。

語り手／ユウキ＆ダイキ 「食べるー！」

ひめり この兄弟、いきなり出てきた餅に動じない辺り、わたし達に毒されてるね（笑）

語り手
くちば
「お前らのせいだぞ（笑）

竜胆
ひめり 「ちょ！ わたしにもちようだいよ！」もたもたと高いところから降りながら。

竜胆
「ん、おお……お前ら、来ておつたか」酒入つた瓢箪と釣つてきた魚を提げて登場してやろう。夏はいい季節だ……魚も酒も旨い。

くちば
竜胆まで！ ひめりと竜胆にお餅を放る。

ひめり 「あにひにきたのほー（何しにきたのよー）」餅を口にいれながら。

語り手／ダイキ 「おー、みんないたー！ 今日学校行つたら、この前ゴミ捨てた人の噂が聞けたよー！」

竜胆
「ほうほう」聞きながら魚を焼き始める。まつちはなかなか火がつかなくて面倒じゃなあ……。

ひめり 「腰がなくなつたんでしょ？」ニヤニヤしながら。

語り手／ユウキ 「チツチツチツ、なくなつたのは腰じゃなくて髪だつたんだぜ！」

竜胆
髪だと？

くちば
ひめり 餅がのどに詰まつてむせる（笑）

たんだけど……」

語り手／ダイキ 「二人とも、家具をお寺さんでクヨーしてもらつて、そのままシュッケしたんだって！だから髪がなくなつたんだつてさ！」

ひめり 出家かよ（笑） 猛反省だな（笑）

竜胆 「しゅ、出家？それはまた、思い切つたことをしたのぉ……」さすがに苦笑い。

くちば 餅を食べてゐるふりしてノーコメント！

ひめり 「あの二人、坊主になつたの！？ ケケケ、今度拝みに行つてやろ」悪い顔しながら。

竜胆 「よしてやれ。今度こそ即神仏にでもなつてしまふぞ」

語り手／ダイキ 「友達の親戚がそのお寺さんのお坊さんなんだけどね、そのお坊さんが、ちゃんと反省するならお化けもみんな許してくれるだらうつて言つてたつて。許してあげる？」

ひめり 「許すつて……あーっ！ そう言えば、最初はそんな話だつたわねえ 楽しかつたし、わたしが満足よ！」

くちば 「だ、だよね！ 十分やつたよね！」

竜胆 「ま……仏道の門を叩くほど思いつめたなら、許してやろう。山の恐ろしさは身に染みたであらうしな」

くちば 「あたしはあんたらが怖いよ！」 という言葉を飲み込む（笑）

語り手／ユウキ 「俺はスカッとしたし、こうやつて新しい秘密基地もできたから許してやるぜ！」

ひめり 「ザマア無いわね！ わたしの山で悪さなんて百年早いのよ！」

語り手／兄弟 「ふんつ！ 百年どころか千年早いぜ！」「じゃあ一萬年！」

竜胆 「…………」 ひめりを横目で見て、「こいつは本当に父親に似てる……」とかぼそと呟いておこう。

語り手 何だその意味深な呟きは（笑）

ひめり 何か勝手に伏線張られた！？

くちば ていうか父親もロクでもないんじやんそれ！

竜胆 ハハハ！ カエルの子はカエルと言つてな。これは狸だが。くちば まあ、あたしの親も兎でした。

ひめり 折角だし、ひめりには母親と過ごした記憶しかない事にしよう。父親なんて話にしか聞いてません（笑）

語り手 ユウキとダイキの兄弟は、「そんな事より、報告することは終わつたし遊ぼうぜ！ じゃあ大将が鬼な！」「にげろ――！！」と、今日も元気です。

竜胆 「だそ�だぞ……頑張れ、大将」

ひめり 「あ！ あんたらズルイわよ！ 待ちなさい！」追いかけていく。

ものがたり『湖畔の秋』語り手・らっこやく

自己紹介

語り手 まずは自己紹介。にけからお願ひします。

にけ ボクは猫のにけ、白地に黒ぶちの13歳の女の子。長めでもふ

もふした毛並みがチャームポイント。名前の由来は、当時小学生だったボクの飼い主が、「毛が三色だとミケなら、二色ならニケだね！」って言つたせい。なんかびみよーな感じがしたけれど、なんかもう最近慣れちゃつてどうでもいいや。

寄る年波には勝てなくて、最近は縁側で日向ぼっこ、が日課になつてるかなー？

時々近所の爺様が将棋盤とか碁盤を広げてるので、下手の横好きというかヒマ潰しに相手してる。将棋は爺様の6枚落ちくらいで互角。

あき にけは13年生きてる猫なの？

にけ うん、結構長生き。

あき おばあちゃんだったのか。「にけさん」じゃん。

にけ だつて、飼い主の子はもう大学生になつちゃつたしなー。……

あき あー、どうせ年齢とか気にしないから敬語とかいいよー……めんどくさいし。

あき はーい。

語り手 じゃあ次にあき、自己紹介をどうぞ。

あき うん！

あき あたしはあき！ 野兎のあき！ 1歳よ。

人間になつたときの姿は、13歳くらいの女の子。髪は茶髪のややロング。街の中学校の制服を愛用してるわ。心も13歳くらいね。

趣味はにけと遊ぶこと！あと、にけにかまわれること！でも、最近遊んでくれないのよね……グレちゃおうかしら？

語り手 野兎だから普段は自然の中にいるんですね？

あき そうね。……今更だけど、にけとはどうやつて知り合つたのかしら。

にけ 家が郊外に近いところだからー。いくらぐうたらだつて言つても、それなりに歩き回るくらいはするしねー。

最近はあきの方から家に勝手に入つてきてるつてところかな？ 爺さんに狩られないといいけれど。

あ、爺さんは近所の家ねー、もっぱら自宅かそつちのどちらかにいるけどー。(笑)

あき 近所の爺さんだつたのね。

語り手 OK。では次につながりを持たせましょう。

あき にけ あたしはにけが大好きだから『愛情』？

にけ 一方的にやられる、こつちの身にもなつてほしいなー。次はボクからあきかな？ うーん……まあ、仕方ないかなーって思つたりー。あきには『保護』にしておくかなー。

語り手 はいはい。では準備はOKですか？

にけ おつけー。

あき いいよー。

語り手 それでは早速はじめましょう。よろしくお願ひします。

あき よろしくお願ひします。
にけ よろしくお願ひしますー。

導入 にけの家・朝

にけ ることにしましょう。
あき 『おとな』は4ー。
にけ 安定のー！ 知らない！

語り手 今回のシナリオ名は『湖畔の秋』。文字通りに季節は秋です。

にけ そろそろコタツ出ないかなー……まだ早いかな。
あき 野兎の毛色はまだ茶色い。

語り手 釣鐘山の木々も赤く染まつて綺麗な季節。そんなある日に君たちはキノコ狩りに行くことにしました。

にけ ええー、動きたくないー（笑）
あき じゃあ、もしかするとあきがにけを誘ったのかもしれませんね。

にけ あき 「うー……何でボクがー？」縁側で片目だけを開いて、あきのほうをぎょろり。

にけ あき 「怖い（笑）『コタツが無いときくらい遊んでよー！』にけの前でぴょんぴょん飛び跳ねていよう。

にけ あき 「そんな事言うと食べちゃうぞー」といいつつ、ねこばんちー。「きやー♪」と喜ぶ。

射程外に逃げられて、仕方ないので立ち上がりつてもう一度、と。そしてはたと気づくわけだ。……起き上がりつちやつたし、これは行かざるを得なくなってしまった。おのれウサ公めー。あきは、ここらへんでは釣鐘山がキノコ狩りによさそうだと知っています。

にけ あき 「まあ、そんなに離れてないしいか……」
語り手 ですが、釣鐘山に入り込むなら土地神様に許可を貰わないといけません。このことは『おとな』が2以上の変化なら知つてい

にけ ることにしましょう。
あき 『おとな』は4ー。

にけ 「そーいや、土地神様には話通してるんだよね？ 通してないならまだ寝てるから行つてきなよ……ふわあ……」
「？ なにそれ？」

にけ あき 「…………えつとねー」かくかくしかじか。
「ふむふむ」

語り手 土地神様の名前は竜胆さんといいます。

にけ あき 「わかつた？ わかつたらちゃんと行つて来るんだよ、たぶん神社にいると思うからー」

にけ あき 「わかつた！ よーし、竜胆様に会いに行こう！ もちろんにけも行くよね！」

語り手 山に入るときに話すのが一番楽ですよー。

にけ あき 「ちえつ仕方ない、それじやあ一緒にいってやるとするか（笑）」「ところで、どうしてにけは竜胆様のこと知つてるの？」

にけ あき 「……この町に住んでて知らないほうがどうかと思うなー、ボク」

にけ あき 「ということで二人で一緒にキノコ狩りへ出発です。
よつこらせー。

にけ あき にけが動き始めたところで導入はおしまい。

場面1 釣鐘山 白津饌（しらつけ）神社の境内・屋

語り手 それでは場面1です。『つながり』の数だけ『ふしぎ』と『想い』を足してください。

にけ あき 足したー。
語り手 はーい。

語り手／竜胆 「ばかもん」げんこつ。

あき 「いって！ にけー！ この人（？）いじわるだよ！」

語り手／竜胆 「脱ぐ奴があるか！」

にけ 「ハア……この子と一緒にいると、どうたらなんてしてられないよー」

語り手／竜胆 「そうじやなあ……少し待つておれ」と言って社の中に入つていく。

語り手 しばらくたつてから、簡単な編みカゴ二つと、何やら大きな風呂敷包を持って出てくるよ。ニコニコしています。

語り手／竜胆 「これを持つていけ、風呂敷包の中身はお守りだから、絶対に開けてはならんぞ。込めた力が消えてしまう」 そう言いながら、あきにカゴと包みを渡しますよ。

あき 「はーい」

にけ 「わかりましたー」 風呂敷包に興味しんしんな感じ。

語り手 風呂敷包を振ると、がしゃがしゃと音を立ててる。

語り手／竜胆 「写見湖の湖畔にキノコ狩りに良い所があるぞ。そこで思う存分に採つてくるがいい」

あき 「ありがとうございます！」 にけ、やっぱりこの人やさしいね（小声）

語り手／竜胆 「なあに、これもおれの仕事だからな」

にけ 「お守りが必要つて……きつとロクなことにならないんだろうなー……」 と独り言。でも変な音に『うずうず』しないわけでもないにけであった。

語り手／竜胆 「さあ行つた行つた」

にけ 「というわけで、嫌々ながらもあきについていくよー」。

語り手 山道に歩いて行く二人。そうすると後ろから「湖には気をつけろんじやぞー」と竜胆さんが声をかけてきました。

にけ ほらやつぱりー！

語り手 そんなところで場面1は終わりです。

場面2 釣鐘山 写見湖・昼

語り手 『ふしぎ』と『想い』を足したあとに、『変身』したままにする場合は消費してください。

にけ 『ふしぎ』と『想い』貰つたー。

語り手 山の中だし、変身はといとくかなあ。

語り手 荷物が持てなくなつちゃいますよー。

あき そうだった（笑）じゃあ、化けたままー。

語り手 にけはそのまま？

にけ そのままー。

語り手 はーい。

にけ にけも変身しなよー！

あき 変身なんてめんどくさい（笑）

にけ 場面2。竜胆さんの神社から写見湖までは林道でつながつています。紅葉で彩られた道を15分くらい歩いていくと、湖に到着します。

語り手 「写見湖についたぞー！」
歩いてる途中、あきの荷物に鼻を近づけて匂をかいでみたりする『うずうず』持ちでありました。
匂いかあ。にけがくんくんすると、鉄つぼかつたり、かすかに辛かつたりでしょかね。（……へんなの）

にけ 「あー、疲れたあ……にけが手伝つてくれないからー」 あたしの荷物、かなり多いよね！
「それじゃ、ボクはここで見てるからー、あきは好きなだけ取つ

- あき 「ときなよー」
「オッケー！ ジやあ、行つてくるねー！」 カゴを持って走りだ
し……「つて！ にけも行くんだよつ！」
- にけ 戻ってきた(笑)「見といてあげるよー」と言つて丸くなつて寝る。
にけはいかないの？ (笑)
- あき にけにはカゴに入れて行こう。
- 語り手 にけにはカゴに入れて行こう。
- あき じやあカゴの中で毛玉になつてるー。「ボクもカゴのなかからキ
ノコ探すよ、だからそれでいいでしょ？」と言いつつ、うとう
としているにけであつた。
- あき 「ちえつ、ずるいなあ」
- 語り手 ところで、風呂敷包は？
- あき 風呂敷包置きっぱなしになつちやうなあ。 にけのいないほうの
カゴに入れていこうかな？
- 語り手 おつきいので入りません！
- あき えー？
- 語り手 重くはないけど大きい。 あきが背負つたら亀になつちやうくら
いのサイズです。
- にけ じゃあ、あきには亀になつておいてもらおう (笑)
- 語り手 置いといても大丈夫ですけどね。
- あき 仕方ない、風呂敷包は置いていくことにするね。 キノコ狩り開
始！
- 語り手 『けもの』で4点以上出せたらたくさんキノコが取れたことにし
ましよう。 一回の成功につき、カゴ一つにいっぱいです。
- あき 「にけー、ちゃんと探してるー？」
- にけ 探してるよーもちろん嘘だけどね。
- あき 『想い』を1点消費して、カゴをいっぱいにするよ！
- 語り手 もちろん、入つているまま。
- あき 「にぎやあ」
「めんごめんご」
- にけ キノコの中から顔だけカゴの外に出てるー。 文句の類は言わな
い。
- 語り手 二つ目のカゴもいってみますか？ 両手がふさがっちゃいます
けどね。
- あき カゴは一旦風呂敷包の隣に置いておこうかな。 そして、にけは
空のカゴに移住させる。
- にけ じゃあごろんと新しいほうに移動ー。
- あき 『想い』も、もう1点使つちやうよ！
- 語り手 じゃあキノコはもう一つのカゴにもいっぱいになるくらい集ま
りました。
- あき そして、また「にけヨキノコ」を作るの。
- にけ 作られたー (笑)
- あき 無意味ににけの体にキノコをおいて「にけからキノコがー！」と
遊んでみたり。
- 語り手 ちなみに、栗とかどんぐりとかもたくさんありますよ。 秋の旬
の味覚がたくさん。
- あき じゃあ、栗も持つて行こう。 もちろんイガ付きでねつ。
- にけ ふふん、毛がふさふさしてるとから痛くないもんねー。
- あき この辺にしておこうかな？
- 語り手 カゴが2つともいっぱいになつたところで、ちょっと判定をし
てみましょう。『けもの』で4以上を出してください。
- にけ 苦手なところを突かれた……まあ判定する気はないんだけど
ねー (笑)
- あき ラストの『想い』を使って『けもの』を4点。
- 語り手 じゃああきは、なにやら湖面が不思議なくらいキラキラ光つて
るのに気がつくよ。

あき 「んー？ ……ねえねえ、にけ。何か湖がキラキラしていない？」
 にけ （湖面を見もせずに）「……そう？ でも、近づいちゃダメって
 言われてたじゃない、もう帰ろうよー」
 語り手 そんなことをすると、キラキラはにけの顔をピンポイントに照
 らしちゃいますよ。

語り手／光 （きらきらきらきら）
 語り手 鏡で光を反射されてる感じのイメージですね。とつても眩しい。
 にけ ジゃあ、チラリとあきの顔を見て、ぎょっとしようー。
 あき 「どうしたの？」と不思議な顔をする。

にけ 「……びかびかしてる」

あき 「それは、さつき言つたじやん」
 語り手／光 （きらきらきらきら）
 にけ 「……まぶしくない？」

あき 「ゼンゼン？」
 語り手 にけさん、なんだか《うずうず》しません？
 にけ うん、《うずうず》して、湖面のほうを見てしまってなー。
 語り手 では光があちらこちらにチカチカ移動しています。そして、段々
 湖に近づいていつていますよ……。光の源は湖面にあります。
 にけ 「わーお」
 あき 「え？ 何か見えた？」
 語り手／光 （にけよ、にけよ、私で遊ぶと楽しいよ。楽しいよ）
 にけ そこまで言われたら、キノコの中から這い出していつてしまう
 なー（笑）のそそのそ。

あき 「に、にけが動いた！？」（驚愕した顔）
 語り手 では光に誘い出されたにけは、湖の岸まで出てしました。

あき じゃあ、にけの後を追いかけて場面2はおしまい。

場面3 釣鐘山 写見湖のほとり・昼

語り手 『ふしぎ』と『想い』を足してください。「変身」してゐる人は化
 けるコストも消費してね。
 足したー。それぞれ8点よ。

語り手 足したー。それぞれ8点よ。

語り手 引き続き『変身』しておくわ。
 にけ 今はしないー。
 語り手 はいはい。

語り手 それでは場面3です。時刻は先程の場面から継続。場所は湖の
 ほとり。
 語り手 にけはいざという時には動いてくれるに違いない……！
 にけ にけが光を追いかけていくと、水辺にでます。
 語り手 水はやだなあ（笑）
 あき （にけこんなに積極的に動くなんて！ あの光のせいね！）「よ
 し、今度からこれ（光）でいこう」
 語り手 光はほとりまでにけを引っ張った後、ふいにどこかへ飛んでい
 きました。

にけ おやー？
 語り手 光のもとを目で追いかけると、手で届くくらいの湖底にキラキ
 ラと光る物体が沈んでいます。深さはちょっととした水たまりく
 らい。よく見ると鏡のかけらのようなものだとわかります。
 じやあその鏡にねこばんち。《どうたら》克服のために『想い』
 1点が必要かなー？
 語り手 あきはどうする？
 あき あたしからしたら意外な展開だし、にけを見つめていようかな。
 語り手 湖面には、にけの顔が写っています。そして、ねこばんちした

ので、触れたかの判定してみましょう。『けもの』で4ください。
にけ
じやあ『ねこかぶり』を使って、『おとな』で判定できるよう
しよう。『ふしぎ』を4点つかうね。

はい。
語り手
にけ
冷静を装うぞー、ボクは好奇心に負けたりなんてしてないから
冷静に観察するぞー、つてことで成功ー。

あき
にけ
好奇心に負けてるんだね！という視線を送ろう。

にけ
ま・負けてなんてないもんね、へへーんだー。

では、好奇心に負けたにけが水に手を突っ込みます。そして鏡
を触った！と思った次の瞬間には、鏡はにけの手の隣にいます。
あれ？

「ふぶぶー、にけ外してるー（笑）」

にけ
ちょっと動搖してやるー。もう一度……判定いるー？

じやあもう一度『けもの』で4点出してください。

また同じ組み合わせで、『ふしぎ』4点と『ぐうたら』克服用の『想
い』を1点。

にけ
『おとな』で4点にして成功ー。

語り手
にけ
（今度こそ……冷静に）

あき
「頑張ってー」とやや、ちゃかす。

にけ
にけは再び手を水の中に突っ込みました。しかし、湖面の揺れ
が収まった時、鏡は再びにけの手の横に移動してるのでした。

あき
声を殺して笑ってる。

にけ
「やっぱボク寝るね」籠に入つて丸くなる。

語り手
にけ
にけがふてくされているとどこからか『あつはつは遅い遅い』と
声が聞こえています。

あき
「だ、誰ー？」声の主を探してキヨロキヨロ。

にけ
「うるさいなあ！ボクは寝るんだからね！寝るつていつたら
寝るんだから！」（ぶんすか）

寝るんだから！（ぶんすか）
語り手
じやあ『けもの』を2点以上出せたら声の場所がわかりますよ。
あき
『けもの』は3だから成功！

語り手
にけ
不貞寝ー。

語り手
にけ
じやああきは、声がさつきにけがてしてし叩いてたところから
聞こえているのがわかりました。

語り手
にけ
じやあ、そっちを見よう。聞こえるけど姿はなし？

語り手
にけ
湖面にはあきのかおが写ってるだけ。鏡はまだそこにあります。
——と、湖面に映し出されたあきの顔がにやりと歪みますよ。

あき
「にけ！大変だよ！あたしが笑った！！」と仰天する。

場面4 釣鐘山 写見湖のほとり・屋

語り手
にけ
時刻は先程から継続。『想い』と『ふしぎ』を足したり引いたり
してください。

語り手
にけ
『変身』も継続するよ。

あき
にけ
そういえば、鏡のときには『うずうず』でびっくりさせられな
くてよかつたのー？

大丈夫です。今びっくりしてもらいますからね！

にけ
じやあー、びっくりさせたまえー！

語り手
にけ
カモーン！

あき
まず、あきは湖面に写った自分の顔が勝手に動いたことにびっくり
しました。『びっくり』の判定です。一番高い能力値で8点以
上を出したください。それ以下だと表で決められたぶんだけび
くり。

語り手
にけ
意図的に驚くつてありかしら？

あき
ありますよ。

あき
じゃあ、『想い』を3点使って『けもの』3点で判定。その場で

その場で想いを3点使って、けもの3点で判定悲鳴をあげます。

あき

ああああああああ！！！！！」

おきな子 悅 外の動うこし がしたよ
いいをこくにしてみるせん
びくうつ。

にけ
きやああああああああああああああ

【語り手】
「はいもここで『ひぐり』を判定してください
【目標値は同じでいいの?】

語り手
いえす。

『うずうず』によると『こども』判定らしいけれど、能力値はそ
にけ

ち使うほうがいいかなー？

語り手
『うすうす』に準拠しますようか

そのまま脱兎のごとく逃げ出してやる——

あき
猫のくせにい（笑）

にけ

語り手
そんな二人を見て(?)湖面に写つたあきは『あつはつは根性

のない子たちだね」と笑っています。

「ひいい…食べないでえ…キノコならいつぱいありますの

『ええ、お好きなだけどうぞ、おおお』

ぞ……つて……』
それじやはるか向こうから、「ボクは食肉目だから食べるほうで

語り手 あつて食べられるほうじやないもんねー」とつぶやく。『おとな』は4点だから分類学の知識も豊富だぞー!

語り手 じゃあ、水面がもこもこしたこと浮き上がってきます。

語り手／水泡 ぼこぼこぼこ……すもー。

あき 「あわわわわ」

あき 泡だけにあわわとは、やるなこいつ。

あき うつかりだよ!

あき 完全変身?

あき なんだ変化か、じやあ寝てて大丈夫かなー。

語り手 怖そうな登場なのに服装はカーディガンにスカートという地味な格好。首に円鏡を下げるという、不思議な女人になります。

あき よ

あき 状況がよく飲み込めず、目をぱちくり。

語り手 そんな所で場面4終わりです……。あつ、そういうえばこの人は『やんちゃ』をもつてるので『びっくり』させたときに『夢』もらいますね。

あき はーい。

にけ＆あき 場面5　釣鐘山　写見湖のほとり・昼

語り手 場面5。時刻は前場面より継続します。(『ふしぎ』と『想い』を)増やしたり減らしたりしましょう。

あき 『変身』は解かないよ!

あき こつちも完全な『変身』状態になりますよ。

あき 足したー。
にけ こつちも反映済みー。

語り手 水からでてきた女のは、めっちゃ怖がってるあきの頭をなでなでします。

語り手／???? 「あつはつはごめんごめん、そんなに怖がらせるつもりはなかつたんだよ」

にけ まだ遠くのほうから、じつと様子をみつめてるぞー！」

あき 「え、えと…その…」

語り手 「あつはつは、とつて喰つたりしないから、猫ちゃんもおいでよ」

あきの頭をなでなで。

「はふ〜」と気持ちよさそうにする。

にけ それじゃあお言葉に甘えて、「想い」を1点使つて『ぐうたら』

を我慢して、『ふしぎ』を5点、「想い」を1点で『変身』ー。女

の人とのところに向かつて、例の風呂敷包みをぐいっと押し付け

てやろう。確かその辺に置いといたはずだしー。

語り手 「あつはつは、そんなものでなにするんだい猫ちゃん」といつて、

にけを抱つこしてみたり。

「なんだ、このお守り効かないじやない……」

にけ 抵抗します？

語り手 抵抗なんてとんでもない！ 今労力使つちゃつたから、これ以

上は温存で（笑）

語り手 ジゃあだつこしてなでなでもふもふ。

人間モードもふもふとは、やるなあ。

にけ ネコミニ人になると、髪の毛がすんごいふわふわしてるよー！

あき 『おせつかい』のせいで、にけに引っ張られちゃう。

にけ あ、ついでに『印象判定』だーい。『おとな』4点、『対抗』で貰つておくー。

語り手 『けもの』1点+『想い』3点でにけに愛情でこちらもとります。
にけ お前なんかの好きにさせてたまるかー、とか思いつつ視線を外してなすがまま（笑）

語り手 続いてあきにも同じ組み合わせで『印象判定』。こちらも『愛情』でとります。

あき ジやあ、あきも『想い』を3点消費して、『対抗』でもらうね。
語り手／???? 「あつはつは…はつ！」すつごいうれしそうにもつぶもふしてた手が止まります。「あつはつは…ついつい調子に乗つちゃつたよ…」

にけ よいしょ、じやあ猫にもどろー。戻るには何も要らないよね？
語り手 戻つちゃうの？ って顔してみよう。

にけ ダメー？

語り手 もちろん戻つてもいいですよ（笑）
あき 手が止まつた隙にそそくさと謎の人から離れようかな。

語り手／???? 「あつはつは、警戒されちゃつたなあ…」

にけ 戻つてから「で、ボクたちに何か用なのー？」とけだるげに聞いてみるー。

あき 「何かようですかー？」

語り手／???? 「あつはつは、竜胆から君たちが来るつて連絡が来てね。

見守り役を任せられたんだよ」というわけで、右手に水でぼこぼ

こと「どつきり大成功」の看板を作つてみたり。

「どつきりつて一体なんのさー」口をとがらせてやる（笑）

「竜胆様に？」にけの後ろに隠れつつ。

本心？ 『こころのぞき』を使うー。『ふしぎ』6点+『ぐうたら』

にけ 対策の『想い』を1点。

語り手 ではにけはこの人の心のなかをのぞけます。

にけ （この子たちかわいいーすつごく可愛いー！ 竜胆もこんな可愛い子たちをびっくりさせるなんてひどい事考えるよ

なー、でも可愛かつたしなー。もうかわいい＝正義だよなーあつ
はつは)

にけ
げんなりしておくー。

にけ
「にけ、この人なんて思ってるの？」（小声）

にけ
何も言わずカゴに戻つて丸くなる（笑）

あき
「い、いかないでよー」といつてカゴごとにけを持つてまた謎の人と対峙するかな。

語り手
警戒しつばなしな二人の様子に、女の人はほっぺたをぱりぱり
かきます。

にけ
語り手／？？？「あー……あつはつは、自】紹介を忘れてたね。私の名
前は写し水（うつしみ）。この湖の守り神つてことになつてるよ」

あき
「写し水？ 変な名前ですね」

にけ
「……さすがにそれは失礼じゃないかなあ？ まあでもおあいこ
だよね」

あき
「す、すいません……」

語り手／写し水「あつはつは、大丈夫だよ、私も変な名前だと思つてる
からね」と、あきをなでくりまわします。

語り手
ちなみに湖の名前も写見湖（うつしみこ）です。

にけ
ヘンタイ神様めー。

語り手／写し水「あつはつは、ところで君たちキノコ採りにきたんだよ
な？」採つたもの見せて「ごらん」

あき
「あそこにあるので全部ですけど……」カゴを指さす。

にけ
「これ？」

語り手／写し水「あつはつは、それそれ。たくさん採つたね……どれ、どつ
こいしょつと」

語り手
「あつはつは、カゴまで歩いて行くと、おばさん臭い声をだし
ながら屈み込みます。」

あき
「あ、あの、お腹空いてるなら、これあげますから……」《もちつき》

にけ
で餅作つて渡すよ。『ふしぎ』を1点消費ー。

にけ
これだから兎はー（笑）

語り手／写し水「あつはつは、きみは、やさしい仔だね」とまたなでなで。

にけ
「でも、そうじやないんだなあ。……うん、これは食べれないや
つだよ」と、カゴの中からキノコを一つ取り出して二人に見せ
ます。

あき
あきをジト目でみてやるー。

にけ
「え？ とっても綺麗なキノコだから美味しそうですけど？」

語り手／写し水「あつはつは、綺麗でもね、このキノコには毒があるん
だよ。……これも食べたらしびれちゃうなあ」とまた一つ取り
出して。

語り手
写し水さんは一つ一つ取り出しては君達に見せ、食べてはいけ
ないキノコを教えてくれます。

にけ
「毒キノコくらい見分けなよ」と呆れつつも、そもそも最初から
何も手伝つていない猫であつた。

にけ
「にけが教えてくればよかつたじやん……」とふくれる。
しまつた、反撃されたー（笑）「教えるも何も見えないじやない
かー」

にけ
「にけ顔出してたし、見えてたでしょー」

にけ
「何のことかなー？ あれは鼻だけしか出してなかつたよー。そ
れにボクの上にキノコ被せたのはどここの誰さー」

あき
「あれはきっと毒キノコじゃないから大丈夫だよー」

語り手／写し水「あつはつは、どのキノコ？」

あき
「これー」そのキノコを取る。とっても綺麗な奴。

語り手／写し水「あつはつは、ちよつとだめなやつだねえ」

あき
「二ヶキノコは毒だつてさ、ぶぶぶ」

にけ
「ふぎやあ」

語り手
ふぎやあかわいい（笑）

語り手／写し水 「あつはつは、まあ頭に乗つけたくらいなら大丈夫だよ」
語り手／写し水 「写し水さんの仕分けは進んでいき、気づけばカゴ二つにいっぱいあつたキノコが、カゴ一つのしかも3分の1くらいしかなくなつていました。」

「あーあ……でもかなり減っちゃつたねー」
語り手／写し水 「頑張つて取つたのにね……」主にあたしが。あたしだけが。

「仕方ないから、もう帰ろつかー。さすがにこれ以上毒キノコ集めるのは嫌だよ」ボクはなんにもやつてないけどねー（笑）

語り手／写し水 「あつはつは、まだ時間はあるからね、もう一度探つてみたらい。わからなかつたら私に聞いてごらん」

「本ですか！？ にけ、やつた！」

「ううん、遠慮しときます……ちょっと一言言つておかないといけない人がいるしねー。……人つていうか、狐かな？」

「ええー、キノコ取ろうよー」

語り手／写し水 「あつはつは、そうさ、そんな焦らなくともいいじやないか。獲物をとるのに焦るとにげちゃうよ」と、にけにウインクしてペロリと舌を出す。

「これだけあればいいじやないかー」
語り手／写し水 「にけのけちー。略してにけちー」

「けちで結構……つて何それにけちーつて」ぶつ。

「笑うのか（笑）
語り手／写し水 「わつはつは、猫ちゃんは私が預かつてあげるよ」だつこー。

「ふぎやあ」
語り手／写し水 「……いえ、にけはあたしが抱っこしますよ」ちょっと不服そうに両手を差し出す。

「あき」
語り手／写し水 「あつはつは、そうかい……？」と、とても残念そうに手渡す写し水さん。

「じゃあでろーんと長くなつて渡される。」

語り手 「じゃあ、そんなふうににけの取り合いをしていると、遠くから「おうい」と声が聞こえます。」

「にやあ？」

「ん？」

語り手／写し水 「あつはつは、件の獲物がちょうど来たみたいだね」

「にやあ？」

場面6 鈎鐘山写見湖のほとり・夕方

語り手 「ここでちょっとれしいお話です。今さつき丁度よくプレイヤーを捕まえられたので、ここから竜胆さんは本人にやつてもらいますよ！」

竜胆 「おー。」

語り手 「それでは場面6、時刻はさきほどより少し進んでいます。声の主は竜胆さんでした。彼はしばらくキヨロキヨロした後に、君たちの姿を確認すると近づいてきます。

「ふう、やつと見つけたぞ」

「ねえねえ、どつきり、つて一体どういうこと？」開口一番。「どういうことだー！」と、にけに続く。

「ふんつと鼻を鳴らすと「喧しい。いいから行く時に渡した『お守り』をよこしてみい」とあきに風呂敷包を渡すよう促すぞ。

「んー」ふてくされたように突き出すよ。

「よろしい。それでは」と、包みをゴソゴソ開く。と、中から出でてくるのは金色のお鍋じや。

「……にやあ？」

「……お鍋？」

「フタを開けると、中にはお椀とお箸、そして調味料などなど。
語り手 『《こころのぞき》するまでもないや……ボクたちにキノコを取つ

てこさせたわけだよね。大きくなめ息をついてやるー。
 あき 「あの、竜胆様？ もしかして、これって……？」
 語り手 神妙な顔で大きく頷く竜胆さん。
 竜胆 「キノコなべをやるぞ！」

にけ & あき （爆笑）
 竜胆 「いやいや、ご苦労だったのう」
 語り手／写し水 「あつはつは、ひどい神様もいたもんだねえ」
 にけ （びきびき）
 あき 「にけー、神様ってみんなこんなのはつかなの？」
 にけ 「さあね……でも変人は多いって聞くよー」
 あき 「変人……」竜胆と写し水を見つめる。
 語り手／写し水 「ん？ あつはつは、竜胆は昔からあんなんだからな
 あ」と、自分も含められることに気づいていない写し水さん。
 にけ 「それじゃあ、あとの準備は2人がやってくれるっていうから、
 ポクたちは少し休もうよー」と「やつてくれるって」のところ
 を強調しながらあきに。（はつ！）「そうだねー休もうかー」同じく強調。
 あき 「というわけで」
 にけ & あき 「後はよろしくねー」

語り手 「あつはつは、これは一本取られたねえ（笑）」
 竜胆 「ふん。まあええじやろ。おまえら若造には山の幸の味は活かし
 切れんだろうしな」
 にけ よーし上手く乗せた、それじゃあ火の傍で丸くなるー（寝る体制）
 あき ジやあ、「にけー遊ぼうよー」と言つてにけをつつく。
 にけ 「キノコと遊んでなよー」
 語り手 えろい。
 竜胆 キノコとあそんでなよー。
 えろい。

にけ お前ら汚れてるぞー（笑）
 あき ゆうこやらしくない一幕（笑）
 にけ というわけで丸くなってるから、火は近すぎず遠すぎないあた
 りでお願いねー（笑）
 にけ が遊んでくれそうに無いので「今日から君がニケキノコ二
 号だー」とかいながらにけにキノコを刺して。……もちろん
 キノコは綺麗なキノコね。
 にけ じゃあ綺麗にデコレーションされた毛玉ができましたー。
 語り手 そんなにけとあきを傍目に写し水さんと竜胆さんの作業は進み
 ます。
 語り手／写し水 二人をのほほんと眺めた後「あつはつは、じやあ私はと
 りあえず薪でも集めようかねえ……よつこらせ」と腰をあげる
 写し水さん。えつちらおつちら薪を拾つたり、追加の食材を拾つ
 たりします。
 竜胆 「澄んだ晩秋の空の下、山菜鍋を前に呑む酒ほど心安らぐものは
 ない。たまには憂さも晴らさんとおれが厄神になつてしまふよ。
 最近どいつもこいつも無責任な願いばかり放り込んで来よつて
 からに……」
 語り手／写し水 「あつはつは、薪の組み上げはこんな感じでいいのか
 な？」
 竜胆 「これでは神か小姓かわかつたものでは……うん？ ああ、まあ
 ええじやろ」
 にけ 全く噛みあわない二人（笑）
 あき 語り手／写し水 「あつはつは、水はるぞー」と、『ふしぎ』を8点つかつ
 て『ずぶぬれ』で、お鍋に水を投入。
 にけ これだから河童はー（笑）
 語り手 きれいな水だもん！
 にけ 知つてるよー！

あき そうなのかー！
 語り手／写し水 「あつはつは、火つけるぞー」 ばば。
 竜胆 火まで使えるとは！ 『ひのたま』が火力に結び付くかどうか真剣に考えていたぞ！

あき 河童つてすごいのね！
 語り手 えつ、普通にチャツカマンと新聞紙ですけど……。

にけ あき にけ
 竜胆 ちやつかまんとはなんだ……。
 あき (笑) なんだ (笑)
 語り手 マッチ？

竜胆 ああ、まつちなら知つておるぞ。まつちも変わつたなあ てい
 うか大きくなつてゐるなあ。
 にけ あつたかくなつたので、毛玉はすーすーと寝息を立て始めました。
 竜胆 じやあ味噌入れて、だし用の干物入れて、山菜入れる。そして
 あき 収穫したニケキノコ二号をこつそり鍋の中に……。
 竜胆 「変なもん入れたらそれ食わすからな」
 あき 「竜胆様だつてなんか入れてるじゃないですか」
 「たわけめ、あぶらあげを知らんとは。これのあるなしで鍋の価値は大きく変わるのでぞ。天と地だぞ」

語り手／写し水 「あつはつは、おまえまだあぶらげふえちなおつてないのか」
 竜胆 「ふえちではない、純粹な嗜好によるものだ」
 あき 「二ヶキノコ二号だつて、いれるだけで天国と地獄ぐらい変わりますよ」
 地獄にしてどうするんだよー (笑)
 にけ 竜胆 天国に行くような気分で死ぬか、地獄の苦しみにのたうちまわ

あき あき にけ
 語り手／写し水 「あつはつは、こんなに賑やかな夜はひさしぶりだなあ」
 にけ あき にけ
 語り手／写し水 「あつはつは、ちえーすごすこと引き下がる。
 そんなこんなしてるとこでいい匂いが鼻をくすぐつて、「ふにやー」という謎の寝言を出してみたり。
 ふつふつと煮込んでるうちに段々と辺りが暗くなつてきていま
 す。
 語り手 おお、良い頃合いだ
 竜胆 語り手／写し水 「あつはつは、栗いれていいか？」 ばとぼとぼとぼと。
 竜胆 「ちょっ、おまえ……」
 あき 栗入れちゃだめ！
 竜胆 「貴様は昔から適當な采配で台無しにしよる……栗を味噌で煮るな」
 あき 「あつはつは、いいじやないか、すべて秋の味覚だぞ、私達の土地が頑張つた成果だ」
 語り手 あぶらあげも秋の味覚……？
 竜胆 「その成果をむげにするなど言つておるのだ。栗には栗の本懐が……ええい、もういいわ。ほれ兎、猫を起こせ。今夜はゆつく
 り星でも眺めて、腹を満たすぞ」
 あき 「了解です！」 にけ一起きろく。うりうりとにけを撫で回す。
 にけ 「むにや……」
 竜胆 が蓋を開けると、白い湯気がほこほこと立ち上り、お味噌の香りが辺りに広がります。
 にけ 語り手／写し水 「起きるー、起きるからー……あ、いい匂い」
 にけ 焚火の光と暖かさがじんわりと広がつてくるころに、お鍋は完成しました。
 にけ 語り手／写し水 「できたんだねー、おいしそう」 (くんくん)
 (しんみり)

竜胆 「茸の駄賃だ、たんと喰えよ。おまえら酒は呑める口かや？」

語り手／写し水 「あつはつは、もちろん私は呑むぞお」

にけ 「お酒は飲むと溺れ死ぬからやめとくー……」 (c.f. 我輩は猫である)

あき 「ちよ、ちよつとだけ……チャレンジ！」

竜胆 「よろしいよろしい。何事も挑戦じや。……さて、それでは皆手を合わせよ」

竜胆 「いただきます」

語り手／写し水 「あつはつは、いただきます」

にけ 「いただきまーす」

あき 「いただきます！」

語り手 秋の味覚たっぷりのきのこ鍋は体の底からじんわりと温めてく

れます。

語り手 湯気がのぼっていく空を見上げると、そこには冬の星座がきら

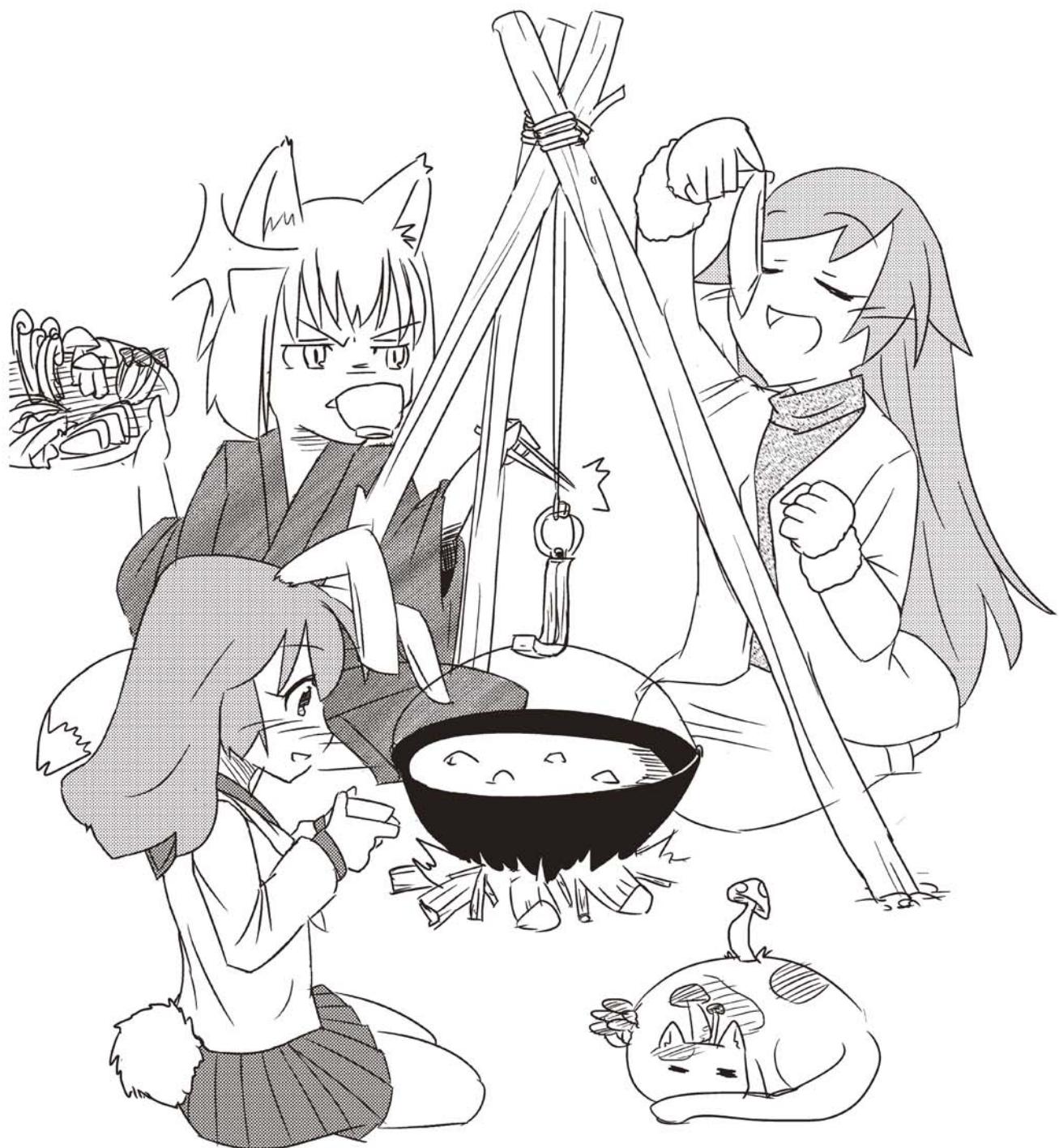
きらと光っていました。このあたり一面が白で埋め尽くされる

日もそう遠くはないでしょ。そんな所でシナリオ『湖畔の秋』

はおしまいです。おつかれさまでした。

一同

おつかれさまでした。



あとがき

『秘密基地を守れ!』に、竜胆で参加させていただきました。『湖畔の秋』にも、一部出演させてもらっています。

竜胆でゆうやけに参加したのは、これが初めてではないのですが……何ともまあ、可愛げのないキャラクターに仕上がつてしまつたものですが、ゆうこやのくせに(笑)

森宮市デザインの際にせつかく付けていただいた神様設定を生かそと、それはもう偉そうに振るまい、あげく他のキャラクターに勝手に伏線まで張る始末!それを笑つて許してくれた語り部さん、他参加者の皆には足を向けて眠れません。

そして、素敵なイラストを描いて下さったわどさん、今回の編集、製本に関わつて下さつた全ての方に感謝。ありがとうございました。

『湖畔の秋』ではあきで、『秘密基地を守れ!』ではひめりで参加させてもらいました。

実は、『湖畔の秋』が初ゆうこやでした。だというのに、にけが動いてくれない! あきはにけ大好きつ子なので、なるべくかまつてもらおうと頑張りました(笑)

ひめりは思つていた以上に良いバカキャラになつてしましました。思いつきで喋るつて怖いね。思いつきのネタを拾つてくれた他のキャラに感謝です。そういうえば、「ひめりの父」の伏線が回収される日はくるのだろうか……。

g o b u

『湖畔の秋』

るう

『秘密基地を守れ!』をかつて大学の後輩相手に行つたとき、ユウキ&ダイキ兄弟のロールプレイが“板についている”と評判でした。ちょっと複雑。板につくといえば、ひめりの小学生RPも素晴らしいかった(笑)

『湖畔の秋』はにけで参加でしたが、『ぐうたら』は扱いが難しい!『ぐうたら』しつつも物語にはちゃんと参加しなければならない、というのは思つた以上に大変でした。ちゃんと参加しているように見えてればよいのですが。

らつこやく

見切り発車で始めたりプレイ集の制作でしたが、なんとか完成させることができました。これも偏に関わつてくださつた皆さんのおかげです。そして、この本を手にとつていただけたあなたにも最大級の感謝を。ありがとうございます!

『秘密基地を守れ!』に兎のくちばで参加させてもらいました。ゆうこや。判定に成功するかどうかをプレイヤーが選べて、スピーディーに回せるのがいい。その分ロールも濃くできるな、と思います。

くちばに関しては、他の参加者がひつぱつといつてくれるという信頼(信頼ですとも)のもと、かなり好き勝手やらせてもらいました。バカでごめん。イラストを描いてくれたわどさんにも感謝です。かわいく描いてくれてありがとうございます!

t e s

ゆうやけこやけりふれい 湖畔の秋

発行日 2011年12月31日

発行 かりかわくら

発行者 くわいじゅく

連絡先

rakkoyaku@gmail.com

印刷所 ねいのつへせ

<http://karikariume.com>